

【作物】

1 水管理

これからの管理で、最も重要なのが水管理です。根の活力維持に努め、品質の向上に努めましょう。

- (1) 出穂期～出穂期以降
浅水管理（2～3cm）をします。異常高温が続く場合は、かけ流し灌水で地温を下げ、根傷みを防ぎます。
- (2) 登熟期
灌水して土壌に水分を与えたら、水は溜めずに、足跡に水がたまっている程度（飽水状態）にします。
- (3) 落水期
落水期は収穫前7日程度としますが、収穫作業に支障のない程度に刈り取り直前まで走り水灌水で土壌水分を保ちます。

2 病害虫防除

- (1) 斑点米カメムシ類、特にミナミアオカメムシによる被害が大きいので、防除を徹底して下さい。
スタークル顆粒水溶剤 2,000倍（収穫7日前まで）を使用する場合は、出穂後10～15日頃に散布して下さい。多発時には、1回目防除の7～10日後に追加防除をして下さい。
スタークル粒剤 3kg/10a（収穫7日前まで）を使用する場合は、出穂後7～10日頃に散布して下さい。
スタークル剤は、ウンカ類・ツマグロヨコバイにも有効です。
- (2) いもち病が発生している場合は、速やかにブラシフロアブル 1,000倍（収穫7日前まで）で応急防除をして下さい。



ミナミアオカメムシ(成虫)
(体長12～16mm)

3 収穫準備

コンバイン、乾燥機等の点検を実施して、計画的な作業を行って下さい。

【品種別収穫適期基準】

| 区分 | 短期あきたこまち | ヒノヒカリ | にこまる |
|-------------|-----------|-----------|-------------|
| 出穂後積算温度(°C) | 900～1,050 | 900～1,100 | 1,000～1,150 |
| 最長稈黄変率(%) | 85 | 85 | 85～90 |
| 出穂後日数(日) | 33～37 | 40～46 | 42～48 |

<松本>

【野菜】

1 さといも

- (1) 病害虫防除
ア 疫病、軟腐病
9月は、孫芋の肥大並びに充実期です。台風等の強い風雨により疫病が急激に拡大すると、収量減が予想されます。
疫病対策として、ジーファイン水和剤での予防散布、アミスター20フロアブルによる発生初期の治療散布に努めて下さい。また、9月は気温が高いため、圃場内の停滞水は、軟腐病による芋の腐敗を助長しますので、排水対策は徹底して下さい。
さといもは散布薬剤が付着しにくいので、まくびか10,000倍を加用して下さい。また、葉害を軽減するため、土壌水分や植物体の水分を観察し、適正な水分状態で夕方に防除をして下さい。

| 薬剤名 | 病害名 | 濃度 | 使用時期/回数 | 特徴 |
|--------------|-----|--------|---------------|---------------------------------|
| ジーファイン水和剤 | 疫病 | 1,000倍 | 収穫前日まで / - | 予防効果がある 高温多湿時葉害を生じる場合がある |
| アミスター20フロアブル | 疫病 | 2,000倍 | 収穫14日前まで / 3回 | 予防及び治療効果がある 高温多湿時葉害を生じる場合がある |

イ ハスモンヨトウ

発生密度を確認して、フェニックス顆粒水和剤 2,000～4,000倍（前日/2回）で防除して下さい。

- (2) 出荷計画
マルチ栽培のさといもは、掘取り調査の結果等を参考にして、計画的に収穫して下さい。
- (3) 追肥
露地栽培
9月は孫芋の肥大充実期になります。9月上旬に「化成44」を30kg/10aを施用して下さい。また、肥料の吸収量は、次第に低下しますので過剰施肥は控えて下さい。

2 やまのいも

9月下旬までは芋の肥大期です。極端な乾燥や湿潤にあうと芋が肥大不足や2次生長を起し形状が乱れることがあるので、水管理には最後まで注意し、土壌水分を適湿に保って下さい。

- (1) 病害対策
炭そ病の発病が懸念される時期です。葉が枯れあがらないようにトップジンM水和剤等で予防散布に努めて下さい。なお、強風や大雨の後及び炭そ病発生圃場では、ラビライト水和剤 400倍（収穫14日前/4回）を散布して下さい。
- (2) 害虫対策
ハダニ類による吸汁及びヨトウムシやナガイモコガ等の食害による葉面積

の極端な減少は収量低下につながります。圃場を巡回し、適期防除に努めて下さい。

- (3) 排水対策
大雨の際、圃場内に滞水が起こらないように排水路の点検をして下さい。
<山口>

【果樹】

1 摘果

- (1) 温州みかん
着果と新梢のバランスが良く後期摘果を行う予定の樹は、早生温州の着果量が多い樹から摘果を開始し、10月上旬頃を目途に普通温州までの摘果を順次、実施して下さい。
果梗枝がたく下垂しない果実、果皮が粗い果実、極小果、キズ果、内・すそ成り果を摘果し、果皮表面が滑らかな小中玉果を樹冠の表面近くに多く着果させます。思いきった摘果を行い、葉果比20～30程度に調整して下さい。
着果量が少なく樹上選果で対応する樹は、10月以降に大玉果や傷果を樹上選果して下さい。
- (2) 中晩柑類
小玉果、内成り・すそ成り、日焼け果、キズ果を摘果して下さい。

2 灌水

- (1) 温州みかん
葉の巻き具合（葉の萎凋が朝になっても戻らない）、旧葉の落葉状況等をみながら、7～10日間隔で10～20mm（10～20t/10a）を目安に灌水して、適度な水分ストレスを維持します。
- (2) 中晩柑類
高温、土壌乾燥が続けば7～10日間隔で20～30mm（20～30t/10a）を目安に灌水を行って下さい。
甘平は9月に裂果の発生が多くなるので、土壌水分の急激な変化を避けるために、自然降雨を含めて5日間隔で20～30mmを目安に灌水し、適度な土壌水分を維持します。
<守屋>

【花き・花木】

1 アネモネの本圃の準備

- (1) 土壌消毒の実施
排水・保水性が良く、日当たり・風通しの良いほ場を選定します。
バスアミド微粒剤 20～30kg/10aを均一に散布して土壌と混和します。散水後、すぐにビニール被覆し、10～14日後にガス抜きを行います。
- (2) 苦土石灰と元肥の施用：苦土石灰 100～120kg/10a、スーパーエコロング 413(70kg/10a)、ようりん 60kg/10aを施用します。
- (3) 畦立て：畦幅 120～130cm、畦高 15cmが基準です。

2 ラナンキュラス

- (1) 播種床の準備：本圃 10a 当たり 100㎡の播種床を用意します。
- (2) 元肥（播種床）の施用（100㎡当たり）
苦土石灰 10～12kg、石灰窒素 6kg、ようりん 6kgを施用します。

3 シキミ

秋芽伸長期です。新芽に被害を出さないよう適期防除して下さい。
炭そ病にはペンコゼブ水和剤 600倍、アブラムシ類、グンバイムシ類にはスミチオン乳剤 1,000倍、サビダニ類にはピラニカEWを散布します。

4 ピットスポラムの生産振興

ピットスポラムは常緑低木で、光沢のある波打った葉がアレンジに用いられ、安定的な需要が見込まれます。
9月中旬から10月が定植適期です。生産・販売に関心のある方はJAうま営農経済部 高橋または指導班 安藤まで連絡して下さい。
<安藤>

【畜産】

暑熱対策の継続、徹底を

家畜の適温域の上限は乳牛や成豚で20℃、採卵鶏は28℃ですが、9月中旬までは最高気温が適温域を大きく超える日が続きます。
家畜に夏バテのストレスが蓄積していると、たとえ朝晩の気温が涼しくても体力が回復するまで数日間を要します。体熱の放散が不十分だと、日中に上昇した体温が夜間に正常に下がらないことがあります。朝晩に作業者が涼しく感じると夜間に送風機を止めてしまいがちですが、**9月中旬頃までは家畜の様子や舎内の気温等も確認しながら、夜間も送風機を運転して下さい。**
体力回復のためには、食欲不振をなくし、いかに飼料を食い込ませるかが重要になります。栄養成分では、夏場は食塩やミネラル・ビタミン類の消費が多くなるため、飼料への添加が有効です。また、冷たい新鮮な水がいつでも飲める状態にあるか、給水設備のチェックも重要です。早朝の時間を有効に使って細やかな飼養管理を行いましょう。
<住吉>

【鳥獣害】

市内で増加するニホンザルによる農作物などへの被害対策を地域で考え、実践していくための研修会を開催します。是非、ご参加ください。
日時：9月10日（火）13：30～16：00
場所：JAうま総合経済センター
内容：講演「地域で取り組む効果的なサル対策の実践」他
講師：(株)野生鳥獣対策連携センター 阿部 豪先生
<山橋>